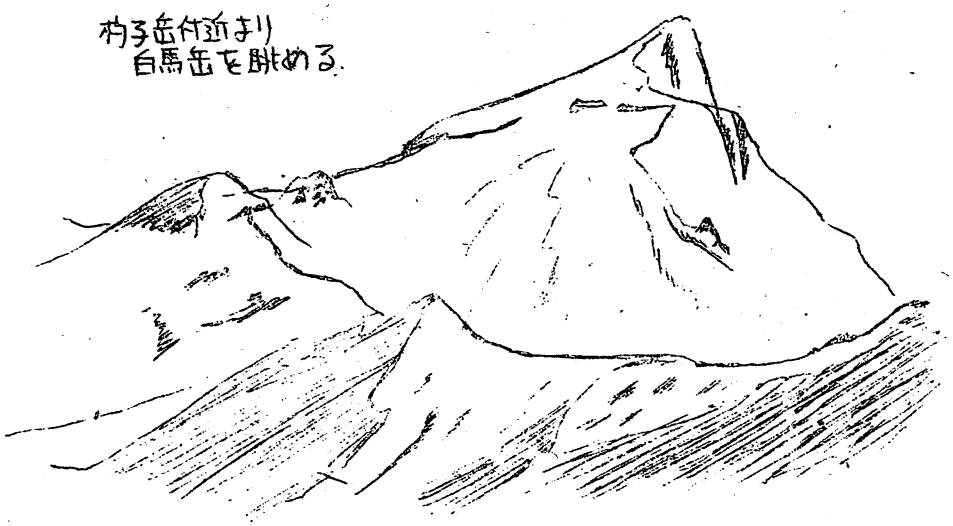
# 1976
# 後立山縦走 報告書

《杓子双子尾根～鹿島赤岩尾根》
（⇄白馬岳）




◎期間 3月17日～3月28日

◎メンバー L 吉田 秀樹（L4－Ⅳ）ESSEN・医
二俣 勇司（L2－Ⅱ）装
片山 博彦（A1－Ⅰ）会・海・記・気
（L－人文，A－農）

SMAC

信州大学山岳会伊那松本山岳部

# 春山を終えて.

前半の悪天続きやら、装備のアクシデントやらで、結局天狗尾根を下降できなかったものの無事、鹿島槍を越える事ができて嬉しい。あれから大分たち、又新しい人たちと夏山を向かえる季節となってしまったが、春山について少し考えてみたい。

春山に後立山へという希望はプレ各山頂から出され、それが、冬山に於いてのラッセルと単調な稜線歩きへの物足りなさから、アイゼンの世界へという一つの対象として現実味を帯びてきたわけである。新鮮さはあまりない。人長(ひとけ)のプンプンする所である為、今までのアプローチを含めた北海道の山や黒部源流の優なおおらかさはないかもしれないが、僕らのもう一方の欲求を満たしてくれる場所である。後立山のもっとも後立山らしい所へ、そして2年前の3月にメムバーの1人が唐松岳以南を縦走しているという事で、双子尾根から天狗尾根へという計画が決定した。入山路、下山路、そして不帰を含むこの計画はザイル使用の多いルートであり割合負担すぎた計画にも思われたが、ザイルピッチを次々に延ばせる3人までのパーティとして又、軽量化に努める事を基にして対処した。

〔入山してからの事〕

先ず、初日からの悪天が白馬山荘で追い打ちをかけられ、鹿島を越える事が出来るか不安だったが、結局その後2日間の長時間行動によってその不安はムダになった。しかし、五竜のPeakから冷池小屋に入った日の11時間行動は最初から予定したものでそれなりの対処をしていたので不明はなかったが、白馬山荘から唐松山荘へ入った日の8時間行動の時は全く予想外の事である。それだけに問題が残った。大きな原因として不帰を甘くみていたという事が言える。(天狗の大下りロから五峰Pまで6時間半)、白馬山荘での沈滞続きで少しでも距離をのばしておきたいという焦りがあった。ガスと視界の為に唐松岳Peakから小屋までの例んでもない所で下り口をまちがえてしまった事もあわせて考えてみたい。

もう一つ、これは各自の問題といえるかもしれないが、ここはナダレそうか、そうでないか、ザイルがいるか、いらないかの判断(これは時に不帰の手前で問題となった)。これは最終的にはリーダーの判断に従うのだろうけど、納得できる範囲であればよいが、それ以上であればパーティを組む以上、はっきりさせておきたい事である。他に装備の係の統括で出ると思うが、エスパーステントのフレームのジョイント部、新しいタニのアイゼンのジョイント部の破損はこの製品自体の欠陥の様に思われた。

各期小屋以外の小屋を使う事・軽度の凍傷を負ってしまった事
雪洞をつくる技術の事 ……

誰れも足手まといになる様なミスをしなかったのも無事下山できた要因だろう
それが1つの自信となると思う。 ……

51.7.5　　吉田 秀樹.

# 行動記録

（記片山）

3月17日(水)　⊗→◎→⊗　（合）

松本発(6:00) ═ 白馬駅(9:30) ═ 二俣志の中間点(9:45) ── 猿倉荘(12:40)

久し振りに雪の中松本を出発。ストの関係で大町で2時間近く待たされた。白駅駅に着いた頃より雨。3ピッチで猿倉荘に着く。小屋は開いていたので使用させてもらう事にする。雪は少なく、くるぶしから足首位のラッセル。

3月18日(木)　◎→◎→⊗　〔Ω〕

猿倉荘(6:25) ─ (双子尾根) ── 樺平上部(10:40)

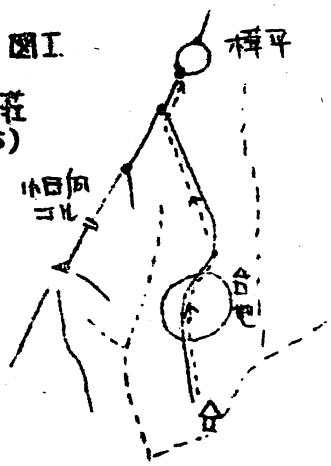
猿倉台地からは雪質が安定していたし、トレースもあったのでコルへトラバースせずに去年の五月に使用した尾根をまっすぐのぼる。アイゼンで双子尾根上に出た頃は寒冷前線の通過にともなう強風とみぞれの為樺平泊まりとする。この時エスパーステントを張ろうとしたがフレームが折れ結局雪洞を掘る。

3月19日(金)　⊗→◎　〔合〕

Ω(6:30) ── J.P.(9:20) ─ 杓子p.(11:35) ─ 白馬山荘(1:25)

樺平より上部にはナイフリッヂも出てきJ.Pまで2ピッチ。途中の岩峰fix 2ピッチ。視界が非常に悪いのでJ.Pからはコンテでいく。途中雪の斜面1ピッチと北東稜と合する当り1ピッチ半スタカットで杓子岳へ出る。すごい強風の中やっとの思いで冬期開放小屋のある5しいい白馬山荘についたが位置がよくわからずその辺の窓をあけてはいらしてもらう。この2時間ばかりの間に三人共顔に軽い凍傷をおう。

図I.




3月20日(土)　◎　風強し

4:40に起床　しかし風強く視界悪いので待機、のち沈殿とする。

3月21日(日)　◎　風強し

白馬山荘(7:35) ─ 白馬岳p.(7:55) ─ 白馬山荘(8:05)

4:30に起きたが相変わらずの天気で待機。明るくなるにつれ少し天気もよくなった(?)ようなので白馬岳を空身でピストこするがめちゃくちゃ寒くて風強く、視界も悪かった。

3月22日(月)　◎　風強し

5:00起床　完全な冬型の気圧配置で今日は最悪の天気。沈とする。

3月23日(火)　◎　風強し

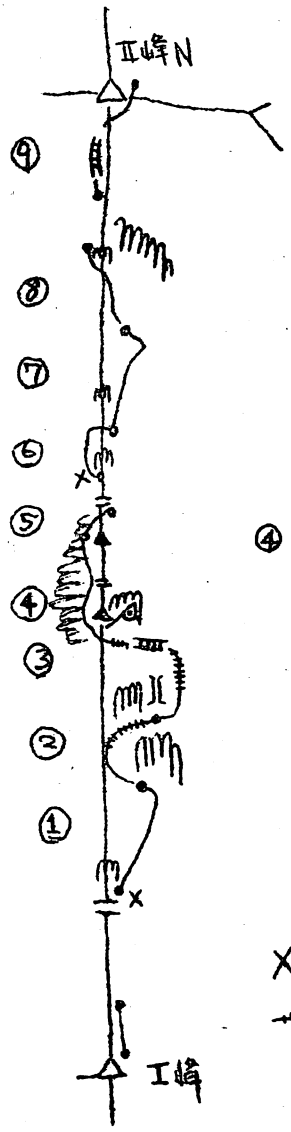
今日こそはと思っていたが相変わらずの天気で沈殿。少しイライラしてくる。もう花札もやる気がしなくなってくる。

3月24日(水)　◎→○→◎　〔晴〕

白馬山荘(6:30)－鑓ヶ岳(8:30)－天狗の大下り口(10:05)－唐松不帰II峰N(4:15)－唐松岳(5:45)－唐松山荘(6:30)

朝方、ガスと弱干の風があるが久し振りに晴れそうで出発する。杓子岳に着く頃はドッ晴れ　よくしまった稜線を天狗の大下りの入口まで。時間は10:05、充分に不帰を抜ける事が出きると力をくくり　ガチャザイルを出し、片山の荷物を少し戴らしていよいよ大下りにはいった。不帰1峰の下りでスタカット1ピッチ　II峰の登りはさすがに迫力がある目でルートを追いながらザイルをのばして1ったし(図II)。II峰の北峰に出た頃は完全にガスにまかれ　ルートがよくわからず稜線よりに1ったためザイル2ピッチ使用。つかれているためか簡単な所だが手間どる。やっと見覚えのある唐松岳peak　ホッとしたのはよいけれど　降りる方向まちがえ20分程ロス。しんどかった。まっくらになりかかる頃小屋にはいった。

図II　不帰核心部




⑨ 最後の岩場の夏のハゴのある所をぬけるとNpeak

⑧ 少し傾斜のきツイ岩場を主稜線めかけて1ピッチ雪稜に出る

⑦ ギフ県側をまくように1ピッチ。

⑥ ここも信州側をまりていくと急だが深いラッセルと雪ゼの上かもしれないという不安で強引にブッシュの中主稜線を乗越す。

④⑤ ~~ラッセルで~~ ここから稜線上は岩がそびえ信州側に出た所の稜線より1段下った所にある雪の棚の上を腰までのラッセルで1ピッチ半で主稜線に戻る。

③すぐ上のチムニーの上には鉄のハゴがみえるがここは夏道どおりギフ県側へ少しトラバースするとクサリがでておりそれに導びかれるようにトラバースすると雪の主稜線に出る。

②主稜線へ戻ると夏のクサリが出ておりそれに導びかれる様に雪の付いたバンドをトラバースする。

①ギフ県側を巻き1ピッチのばす。

X 標識　IIIIII ハゴ　P 残置ハーケン

クサリ 針金　ピッチ　雪の棚

## 3月25日(木) ○ 〔Ω〕

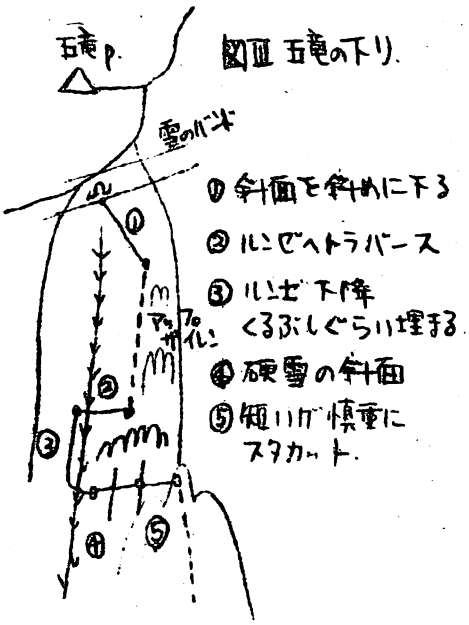
唐松山荘(8:10)—五竜山荘(10:45)—五竜岳peak(12:20)

今日はドッ晴れだ。昨日のキン張した稜線にくらべトレースもあり ぐっとのんびりできる。午道にかかるところで片山のタニのアイゼンのジョイントが折れたが予備のアイゼンで助かる。五竜岳の登りはG2の頭は近に1ピッチ fixがはってあり利用させてもらう。五竜岳のpeakで記念写真を取り キレット側へ少し下ったバンドがのところに雪洞をほる。雪がたく スコップつかえなくなってしまった。
エスパースはこわれている。スコップは使えない。ノコギリはがたがきている。おまけに予備は少ない。天狗尾根に下りるなら キレット小屋当りに泊まらないと安心して泊まれる場所に翌日つかないが翌日の天候の保障がない。冷池の方へエスケープするのなら 鹿島を越えれば後はいくらくらくなっても大丈夫でありしかも小屋が使用できるということで ここで天狗尾根下山を断念する。

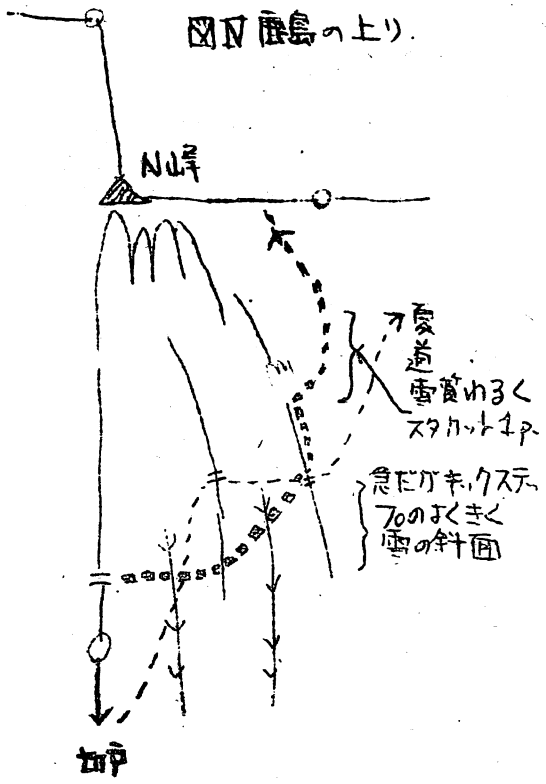
## 3月26日(金) ②|① 〔合〕

Ω(5:40)—キレット(12:30)—鹿島槍N(2:50)—同S(3:30)—~~冷池小屋~~(4:30)

五竜の下りは非常に恐かった(図Ⅲ) ここは最初からまっすぐ下へルンゼ通しに降りればよかったと思う。他G5の下りでスタカットリピッチ。切戸小屋のヘリポートで鹿島の北壁をまのあたりにみる。キレットには残置fixやら鎖やらあり 助かった。北峰の登りは非常に苦労し 時間もかかった(図Ⅳ) 帰尾根はコンテでいくつ南峰の登りは所々氷化していたがステップが切ってありたすかる。南峰からの稜線は風がつよかったが景の拝める所であった。




図Ⅲ 五竜の下り.



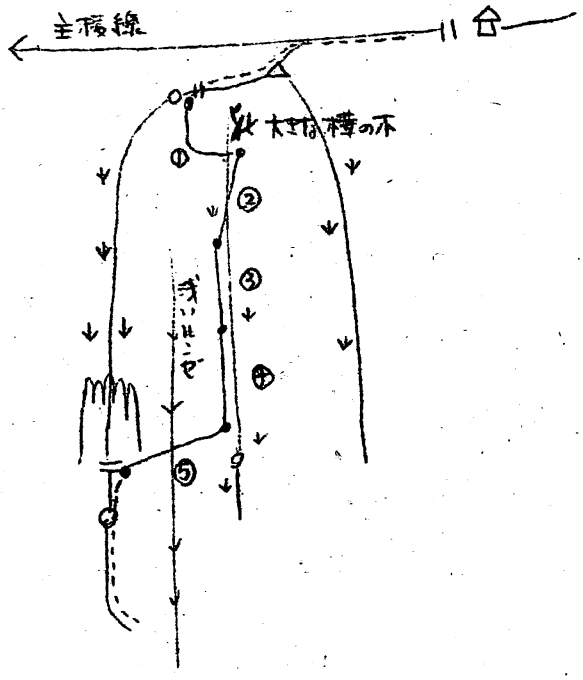

図Ⅳ 鹿島の上り.

3月27日(土) ⊗ 〔⛺〕

安曇小屋(7:55)—赤岩尾根—2100m地点(10:50)

雪が昨夜から降っていて大分積もっている。視界も悪いが今日中全員まで下りてしまおうと出発(小屋の雰囲気も悪かったし)。妙にあたたかく、ナダレの音があちこちでする。下り口からスタカット五ピッチ。雪が不安定についていたのは最初の半ピッチだけであった。(図V) 途中10m弱の急斜面を雪質不安定の為アップザイレン、後はコンテでいく。やっと安心できる所にきたのでエスパースをはる。ホットケーキを腹いっぱいくい、夜は例によって無事下山を祝って酒を飲む。風は非常に強くなった。

図V 赤岩尾根下り口.



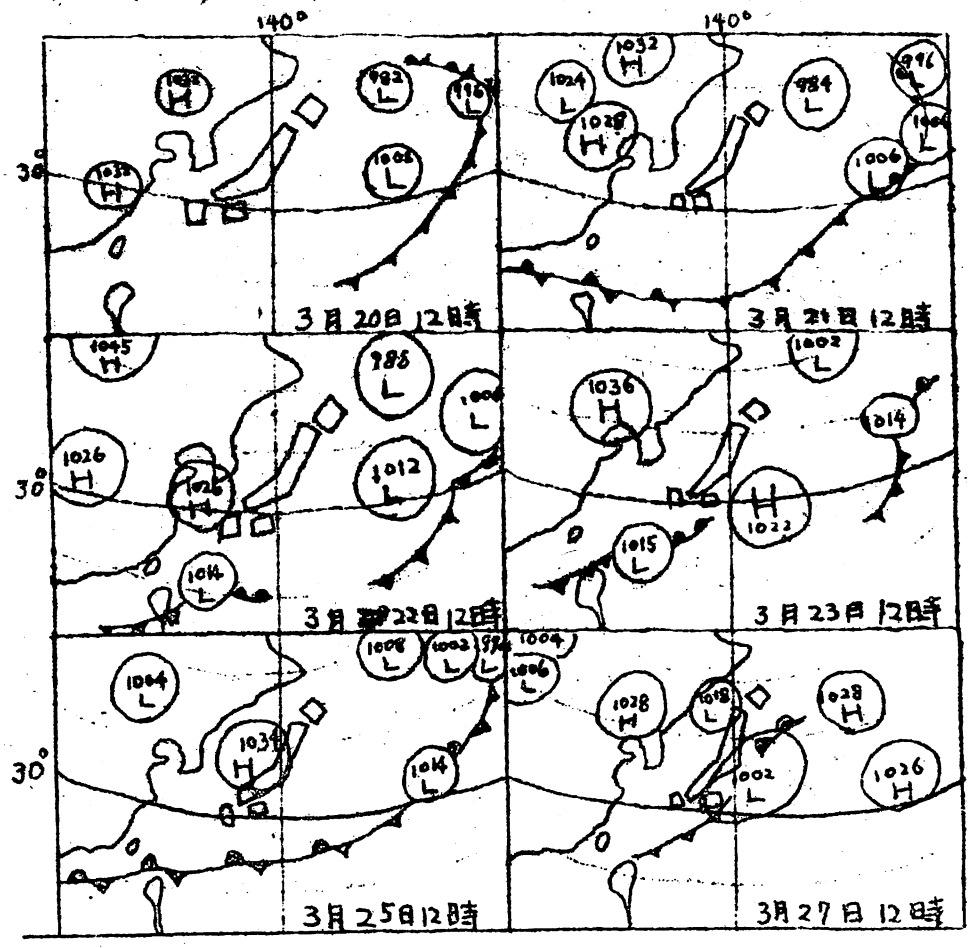

3月28日(日) ⊙→①

天場(7:40)—大谷原(10:30)—鹿島(11:30)=大町 ■■松本

赤岩尾根はひざ位のラッセルから傾斜がつきはじめるとアイゼンの世界となり早いテンポで下る。部屋でミーティングの後解散。

・気象係反省

今回の山行では、3月20日から23日まで、荒天のために白馬山荘で沈殿したわけであるが、大体の気圧配置は下のようなものであった。




3/20～3/23までは、西高東低の冬型気圧配置で、風がすこぶる強く、視界も悪くて動けなかった。

25日には低気圧は東方へ去り、日本列島は高気圧につつまれた型となり、快晴であった。27日には、逆に低気圧につつまれ、この日は、風はあまりなかったが、前夜から雪が降り続き、積雪が不安定で、赤岩尾根の下の方の斜面では、だいぶ雪崩の音がしていた。

## ☆ 芒ESSEN係

量、内容について特に問題はなかった。重量についてのみ報告。
最終的ダニ箱重量は 9Kg 8Kg 7Kg の 24Kg 3人の丸12日分のESSENなので
1日当り1人670gになった。

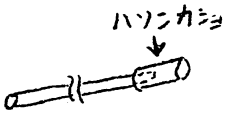
## ☆ 医療係

別に問題なし。使用薬品は ユベラ少々に目薬少々のみであった。

## ☆ 装備係

今山行中、装備の破損が多く、それが天狗尾根放棄の一因となった事は残念です。

1、エスパース(軽量テント)のフレームの破損。




① 3/18 カンバ平 設営中、風強し。
② 3/27 赤岩尾根 夜半、風強し。

①②とも、同じ個所。フレームの樹脂部と金属部のジョイント部。(↑)
②は昨年の冬山(前ホ・北尾根)と同じ、風下側のフレーム。

最近、同じK社から5、エスパースの新型というのが発売されたが、その宣伝文に「……高所厳冬期の自然条件に耐えうるよう材質、モデルを改良、強靭なタイプです。」とあったが、ということは、今までのエスパースではダメという事だろうか。また、山行後、やむおえずフレームを買いに行った時、店の人が「今までのフレームはもうやめた。」とフレームをただでくれたそうです。昨年の冬山の後で行った時は「使い方が悪い」と言われ、買わされたのを考えると店の人も製品自体の非を認めたのだろうか。

今後、エスパースを持って行く時には、フレームのヨビを持って行くか、(フレームは~~場所~~によって3種類あり)修理具が必要。修理具としては、ブリキ、ペンチ、ハリガネ、ノコ、ガムテープが必要。今回はブリキ板がなく、ブスの箱をつぶした。

使用個所

2、アイゼンのジョイント部の破損。
3/25 牛首岳付近の稜線。岩稜的な所。片山。
今、毒うわさのタニアイゼンニューモデル(従来のものを、ジョイントの交換できるようにしたもの)

同時期、針の木で遭難した広大も、同型アイゼンの破損がその一因となっていたし、また、同時期、同じ後立を縦走した北大の記録にも、同型アイゼンの破損が報告されている。製品の欠陥としか考えられない。

別にこのアイゼンだけが悪いと言うのではない。以前から、アイゼンの破損はあった。2月の常念でも、山本と中嶋がアイゼン破損をおこしている。(サルワートップ) 今回は、ヨビアイゼン(※)

↖ 損 ↗

(※)を持参していたため、ことなきをえました。

3. ノコギリ・スコップの破損。

雪洞を作っている時にノコギリをいため(3/18、カンバ平)そのため、スコップの負担が大きくなり、スコップもこわしてしまった。(3/25 五竜山頂付近)

製品自体も弱いが、雪洞の掘り方も未熟だ。

もっといいものを買うか、最低、補強をしておく事。雪洞掘りの練習はもちろんです。

---

春山
II 後立山縦走

昭和51年7月11日発行
(130部)
信州大学山岳会
伊那松本山岳部